

講義名	対)課題演習（経営管理）			
担当教員	濱本 隆弘			
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限	授業形態	演習	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要
本演習では修士論文作成も視野に入れて、問題意識から研究テーマの選定、文献の選択、調査計画の策定、仮説のたて方と検証の方法、結論の導き方の指導を行う。 演習後半は、受講者が交代で研究テーマに沿ったプレゼンテーションを行う。自分の報告だけでなく、他の受講者の報告に接し、有益な質問や助言を提供したり、また教員とのやり取りの中で学術的な研究の方法を学ぶ。

到達目標
修士論文執筆者が本演習において、経営管理と関連づけをとったテーマ設定を行い、参考資料や文献の検索・収集、論文のフレームワークや仮説から検証そして結論へと至る論文構成を考えることで、自己の修士論文執筆の基盤作りができる。また、レジメ作成やプレゼンテーションを行うことで、論文作成のスキルアップを目指すことができる。

提出課題
新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、提出課題の変更が行われる可能性がある。流科ポータルを定期的にチェックする習慣を持つこと。 演習の音から毎回受講者によるプレゼンテーションを行う。 そこでは以下が議題として求められる。 ・報告に関するレジメとレポートを提出 プレゼンテーションについての詳細は、演習開始後、受講生と相談の上決定する。 テーマについては、自己の研究テーマに沿ったものか、経営管理分野に限定するかは未定

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
課題の解説については、講義中にクラス全体に向けて行う。 新型コロナの感染状況により、オンデマンド型講義に変更された場合は、流科ポータルを通じて実施する。

評価の基準
新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、評価の基準も様々な変更が行われる可能性がある。流科ポータルを定期的にチェックする習慣を持つこと。 ・プレゼンテーションとレポート 70% ・演習への貢献度 30% 貢献度は、演習への出席状況、発言回数、発言内容、などで総合的に判断する

履修にあたっての注意・助言他
新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、対面型講義からオンデマンド型講義に変更があった場合、様々な変更が行われる可能性がある。流科ポータルを定期的にチェックする習慣を持つこと。 対面型講義では告知は講義中に全体に向けて行われ、そのあと流科ポータルの講義連絡にアップするが、オンデマンド型に変更された場合、すべて流加ポータルの講義連絡で行われる。不明な点は必ず教員に問い合わせること。教員のメールアドレスは開示します。 講義の中盤以降では、以下が求められる。 ・プレゼンテーションのテーマ決定 ・プレゼンテーションを行う ・報告のレジメを作成と受講者への配布 ・報告に関するレジメを提出 テーマについては、自己の研究テーマに沿ったものか、経営管理分野に限定するかは未定 例としては以下が挙げられる ・論文構想の報告 ・研究計画の報告 ・研究内容の報告 ・研究方法の報告

教科書				
,使用しない。				

プリント資料及び参考文献
<プリント資料> テキストは決めず、講義時に毎回資料を配布する。 講義前に配布するが、流科ポータルからダウンロードする場合もある。 <参考文献> 伊藤 隆二『創作的論文の書き方』有斐閣、2001年 小浜裕久・木村福成『経済論文の作法第3版 勉強の仕方・レポートの書き方』日本評論社、2011年 河野哲也『レポート・論文の書き方入門第3版』慶応義塾大学出版会、2002年

授業計画
1. 演習と修士論文について (1) テーマ、問題意識、仮説など 2. 論文を書く (2) 論文の構成、先行研究と引用、注記など 3. 論文を書く (3) 事例を基にした具体的考察 4. 論文を書く (4) 事例を基にした具体的考察 5. 受講者による問題意識についてのプレゼンテーション、ディスカッション 6. 受講者による問題意識についてのプレゼンテーション、ディスカッション 7. 受講者による問題意識についてのプレゼンテーション、ディスカッション 8. 受講者による問題意識についてのプレゼンテーション、ディスカッション 9. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション (1) (テーマ、問題意識、研究目的、方法など) 10. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション (2) (テーマ、問題意識、研究目的、方法など) 11. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション (3) (テーマ、問題意識、研究目的、方法など) 12. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション (4) (テーマ、問題意識、研究目的、方法など) 13. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション (5) (テーマ、問題意識、研究目的、方法など) 14. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション (6) (テーマ、問題意識、研究目的、方法など) 15. 受講者によるプレゼンテーションとディスカッション (7) (テーマ、問題意識、研究目的、方法など)

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
☐ ア：PBL（課題解決型学習）	☐ イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐ ウ：ディスカッション、ディベート	☐ エ：グループワーク
☐ オ：プレゼンテーション	☐ カ：実習、フィールドワーク
☐ キ：その他（A L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
講義で使用するスライドや資料は流科ポータルにアップしてあるので、自分でダウンロードして、予習・復習に使用すること。必ず1週間前には講義スライドをポータルにアップします。 講義中にダウンロードの指示があったら、次の講義に合わせて随時予習をすること。また、ダウンロードは前期終了時まで可能にしてあるので、復習にも使用すること。 大学院は研究を行うことが主目的であるので、修士論文完成のためにはできるだけ時間を研究活動に投入するべきである。準備学修に必要な時間というなら、すべての時間を研究に充ててほしい。 日常的に、新聞、ビジネス雑誌、Netのニュースなどをチェックして、企業に関わるタイムリーな話題に接してほしい。また、参考文献は図書館に配置されているので、それらを活用してもらいたい。 日常生活における日本語能力と大学院での研究における日本語能力は同じではないという認識を持ってもらいたい。専門分野の日本語をどの程度理解できているか、もし不十分であると思うなら、それを補う努力をしてほしい。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
この講義では、様々な業界における企業経営の仕組みや組織行動の現状分析を行い、経営理論に基づきながら仮説、検証を通して答えを導き出す問題解決型思考を養う。これにより、企業経営の具体的な改善策や解決策の提案ができるようになり、修士論文完成へ向けての準備とする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
講義へのITツール持ち込み許可を前提として以下を目指す。 ・学生のモチベーションを上げる。 ICT教育で使用するITツールによって画像や動画を活用した分かりやすい授業を行うことができ、学生の興味・関心を高め、学習に対するモチベーションが高まる。また教員からの一方通行の授業でなく、ITツールを使用した主体的・協同的な授業が出来ることも学生の学習に対するモチベーションを高める。 ・学生も教員も楽しみながら、効率的な学習ができる。 学生も教員も、テキストによる文字情報だけでは伝えづらいことを、画像や動画などで視覚や聴覚に訴えかける情報によって伝えることができるので、楽しみながら効率的な学習を進めることができる。 ・学生が授業に積極的に参加しやすくなる。

実務経験の有無及び活用
実務経験なし

備考
新型コロナウイルスの蔓延状況に応じて、不明な点は担当教員に必ず問い合わせること。 状況に合わせて対応することに留意する。 以下のオフィスアワーを利用してコンタクトをとるよう。 オフィスアワー